高校生の不登校傾向を測定する試み

堀井 俊章

Measurement of School Avoidance Tendencies in High School Students

Toshiaki HORII

問題と目的

学校教育の在り方を考える上で不登校は重要なテーマの一つである。いまや不登校は小学校や中学校だけでなく，高校（高等学校）や大学においてもよく見られる現象である。令和元年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省，2020）によれば，高校生の不登校生徒は 50,100 人に上り，1,000 人当たり 15.8 人となっている。不登校生徒のうち 90 日以上欠席した者は 9,508 人（19.0%），中途退学に至った者は 11,210 人（22.4%），原級留置になった者は 3,491 人（7.0%）となっている。小学校・中学校と異なり，高校の不登校は中途退学・原級留置につながりやすいという特徴をもつ。

文部科学省（2019）による「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」には，「不登校児童生徒の支援においては，予兆への対応を含めた初期段階からの組織的・計画的な支援が必要である」と明記されている。ここでいう「予兆」は不登校傾向の一種と捉えることが可能であると考えられる。有賀・鈴木・多賀谷（2010）は不登校傾向に関する従来の研究動向を概観している。

高校生の不登校傾向の実態に関する全国調査はほとんど存在しないが，中学生のデータは存在する。日本財団（2018）の調査によると，不登校傾向にある中学生（年間欠席数は 30 日未満）は，全中学生約 325 万人の 10.2%にあたる約 33 万人に上り，その数は不登校の中学生数の約 3 倍に相当し，約 10 人に 1 人が不登校傾向であることを報告している。

五十嵐・萩原（2004）は，「登校しつつ登校回避願望がある状態は，不登校に至らないまでも学校生活を楽しむことに困難が生じており，不登校の前駆的状態として,『不登校傾向』であると考えられる」と述べ，「別室登校を希望する不登校傾向」「遊び・非行に関連する不登校傾向」「精神・身体症状を伴う不登校傾向」「在宅を希望する不登校傾向」の 4 因子から成る中学生の不登校傾向を測定する尺度を開発している。鈴木（2017）はその尺度を用いて，高校生の不適応徴候が不登校傾向を媒介して，欠席・遅刻・早退日数の多さと関連をもつことを明らかにしている。

昨今，大学生の不登校や不登校傾向についても，議論の対象になることが増えてきた。堀井（2013a）は大学生の不登校に関する従来の文献を「不登校の大学生数」「不登校のタイプ・背景要因」「不登校の事例・対応」という 3 つの観点からまとめている。全国規模の調査（水田他，2009，2010）では，不登校の大学生数は 0.7～2.9%（全国の大学生約 280 万人中 2.0～8.1 万人）と推定されており，決して少なくない人数が示されている。小柳（1996）は不登校のタイプが「対人恐怖を伴う不登校」と「抑うつ

を伴う不登校」に大別されることを報告している。高塚（2000，2002）は不登校の類型として「対人恐怖型」「アパシー型」「学校脱落型」などが見られることを報告している。これらの報告は対人恐怖が共通しており，不登校と対人恐怖は密接な関連にあることが推測される。

大学生の不登校傾向については，堀井（2013b）が大学生不登校傾向尺度を開発している。その尺度は「登校回避行動」と「登校回避感情」の 2 因子から構成され，十分な信頼性を示し，また，概念的に関連が予測される対人恐怖心性尺度や年間欠席日数などと有意な関連を示したことが報告されている。

以上のような，大学生の不登校傾向に関する知見が高校生にもあてはまるかどうかは判明していない。そこで本研究では，大学生との比較という観点から，高校生の不登校傾向を測定する尺度を構成し，因子構造と信頼性の検討を行う。また，関連が予測される尺度･指標との関連分析によって高校生不登校傾向尺度の妥当性を検討する。なお，高校生の不登校傾向は「高校の正課活動への回避傾向」と定義した。

方 法

調査対象者と調査時期および手続き

首都圏の高校 3 校の生徒 250 名（男子 105 名，女子 145 名）を対象に，無記名式の集団法による質問紙調査を 2018 年 3 月に実施した。回答に不備のある 5 名を除き，245 名（男子 102 名，女子 143 名）を分析対象者とした。また，大学生との比較分析を行うため，2018 年 2 月に首都圏の大学 2 校の学生 244 名（男子 146 名，女子 98 名）を対象に，無記名式の集団法による質問紙調査を実施した。回答に不備のある 6 名を除き，238 名（男子 143 名，女子 95 名）を分析対象者とした。調査時には調査の趣旨と倫理的な配慮事項を文書と口頭で説明し合意を得た者を対象とした。

質問紙（高校生対象）

1）高校生不登校傾向尺度

大学生不登校傾向尺度（堀井，2013b）の 12 項目について，項目内の「大学」を「学校」に改変したものを高校生不登校傾向尺度とした（Appendix 1 参照）。教示文は「あなたの学校生活の様子や気持ちについてお尋ねします。次のことがらが自分に「あてはまる」か「あてはまらない」か，その程度を〇で囲んでください」とした。各項目に対する回答は，「非常にあてはまる（6 点）」「あてはまる（5 点）」「ややあてはまる（4 点）」「どちらともいえない（3 点）」「ややあてはまらない（2 点）」「あてはまらない（1 点）」「全然あてはまらない（0 点）」の 7 件法で求めた。得点が高いほど各項目の意味する不登校傾向が高いことを表す（逆転項目を除く）。

2）対人恐怖心性尺度

この尺度は堀井・小川（1996，1997）が作成した対人恐怖の心理傾向を測定する尺度であり，6 つの下位尺度（各 5 項目全 30 項目 7 件法）から構成されている（Appendix 2 参照）。得点が高いほど各項目の意味する対人恐怖心性が高いことを表す。下位尺度の概要は以下のとおりである（堀井，2021）。

尺度 I ＜自分や他人が気になる＞悩み

「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」「自分が人にどうみられているのかクヨクヨ考えてしまう」などの項目から構成されている。この尺度は過剰な他意識や自意識を表し，対人関係において，自分のことを評価する他者および他者に評価される自己へのとらわれがもたらす不安意識を表す。

尺度Ⅱ＜集団に溶け込めない＞悩み

「集団のなかに溶け込めない」「グループでのつき合いが苦手である」などの項目から構成されている。集団に対する違和感や不適合感を表し，集団という対人場面に溶け込んで自由に，かつ適切にふるまえないという不安意識を表す。

尺度Ⅲ＜社会的場面で当惑する＞悩み

「人前に出るとオドオドしてしまう」「会議などの発言が困難である」などの項目から構成されている。シャイな心性を背景に，社会的場面でパフォーマンスを行うときの不安意識を表す。

尺度Ⅳ＜目が気になる＞悩み

「人と目を合わせていられない」「人の目を見るのがとてもつらい」などの項目から構成されている。アイコンタクトに苦痛を感じたり，人の目を見たり，人から見られたりすることへの不安を表し，視線恐怖的な不安意識を表す。

尺度Ⅴ＜自分を統制できない＞悩み

「ひとつのことに集中できない」「根気がなく，何ごとも長続きしない」などの項目から構成されている。対人不安の副次的な悩みを表し，自己愛的万能感を背景に，自らの意思や感情を統制できないことへの不満足感や不安意識を表す。

尺度Ⅵ＜生きることに疲れている＞悩み

「生きていることに価値を見いだせない」「充実して生きている感じがしない」などの項目から構成されている。対人不安の副次的な悩みを表し，生への充実感が持てず，抑うつ的になり，心身の不調を感じる不安意識を表す。

3）年間欠席日数に関する質問項目

自己申告による，この 1 年間の欠席日数を問う項目である（1 項目 4 件法）。質問文と選択肢は，「この 1 年間で学校を欠席した日数はどの程度ですか。次の選択肢の番号一つに○をつけてください。1．欠席なし　2．1 日以上 10 日未満　3．10 日以上 30 日未満　4．30 日以上」であった。

質問紙（大学生対象）

大学生不登校傾向尺度

堀井（2013b）が作成した大学生の不登校傾向（大学の正課活動への回避傾向）を測定する尺度であり，2 つの下位尺度（各 6 項目全 12 項目 7 件法）から構成されている。下位尺度は「登校回避行動」（項目例「大学を休みがちである」）と「登校回避感情」（項目例「朝，今日は大学に行きたくないと思うことがある」）となっている。高校生との量的比較を行うために用いた。

結果と考察

因子分析

高校生不登校傾向尺度 12 項目について探索的因子分析（最尤法）を行った。固有値の減衰状況（4.07, 2.18, 0.96, 0.92, 0.66…）と解釈可能性から 2 因子を抽出し，プロマックス回転を行った。すべての項目が当該因子に負荷量.40 以上となり，単純化された因子パターンを示した（Table 1）。因子間の相関係数は.35 と低い値であった。

第 1 因子に.40 以上の負荷を示した「学校を休みがちである（.83）」「欠席しがちな授業がある（.74）」「なんとなく学校に行かないことがある（.70）」などの全 6 項目は，大学生不登校傾向尺度の「登校回避行動」の全 6 項目と一致していた。第 2 因子に.40 以上の負荷を示した「朝，今日は学校に行きたくないと思うことがある（.82）」

Table 1 高校生不登校傾向尺度の因子分析の結果

項目	探索的因子分析		確認的因子分析	
	因子1	因子2	因子1	因子2
登校回避行動（α = .80）				
学校を休みがちである	.83	-.08	.77	
欠席しがちな授業がある	.74	-.07	.74	
なんとなく学校に行かないことがある	.70	-.01	.70	
一日の授業がすべて終わる前に帰宅することがある	.61	.04	.63	
授業を遅刻しがちである	.58	.09	.62	
学校に行きたいけれどもなぜか行けないことがある	.43	.00	.42	
登校回避感情（α = .81）				
朝，今日は学校に行きたくないと思うことがある	.03	.82		.83
日曜日の夜，明日学校に行きたくないと思うことがある	-.03	.81		.80
学校をしばらく休みたいと思うことがある	.06	.63		.65
一日の授業がすべて終わる前に帰宅したくなることがある	-.06	.58		.56
参加したくない授業がある	.06	.56		.56
学校に行くのは楽しい*	.06	.44		.46
因子間相関	因子1	因子2	因子1	因子2
因子1		.35		.36
因子2				

* 逆転項目

「日曜日の夜，明日学校に行きたくないと思うことがある（.81）」「学校をしばらく休みたいと思うことがある（.63）」などの全 6 項目は，大学生不登校傾向尺度の「登校回避感情」の全 6 項目と一致していた。そのため，高校生不登校傾向尺度の第 1 因子を「登校回避行動」と命名し，第 2 因子を「登校回避感情」と命名した。

次に，確認的因子分析（最尤法）を行った。仮定したモデルは，すでに大学生のデータによって得られている「登校回避行動」と「登校回避感情」の 2 因子構造（堀井，2013b）である。結果を Table 1 に示した。モデルの適合度は $\chi^2(53) = 93.19(p < .01)$, GFI= .94, AGFI= .90, CFI= .95, RMSEA= .06 であり，概ね許容範囲内であった。

以上の結果より，高校生不登校傾向尺度は「登校回避行動」と「登校回避感情」の 2 因子構造であることが確認された。

信頼性

高校生不登校傾向尺度の因子別に，当該因子に負荷量.40 以上を示した項目のまとまりを下位尺度項目とし，項目の粗点の合計を下位尺度得点とした。Cronbach の α 係数を算出した結果，「登校回避行動」は.80，「登校回避感情」が.81 であった。堀井（2013b）の大学生不登校傾向尺度の結果と同様に.80 以上の値を示し，高い信頼性（内的整合性）を備えていることが確認された。

関連が予測される尺度・指標との相関分析

高校生不登校傾向尺度と対人恐怖心性尺度の関係を分析するために，Pearson の相関係数を算出した（Table 2）。高校生不登校傾向尺度の「登校回避行動」は，対人恐怖心性尺度の「集団に溶け込めない悩み」「目が気になる悩み」「自分を統制できない悩み」「生きることに疲れている悩み」と.15―.25 の有意な正の相関を示した。また，高校生不登校傾向尺度の「登校回避感情」は，対人恐怖心性尺度の「自分や他人が気になる悩み」「集団に溶け込めない悩み」「社会的場面で当惑する悩み」「目が気になる悩み」「自分を統制できない悩み」「生きることに疲れている悩み」と.34―.54

Table 2　高校生不登校傾向尺度と対人恐怖心性尺度の相関

対人恐怖心性尺度	高校生不登校傾向尺度	
	登校回避行動	登校回避感情
自分や他人が気になる悩み	.11	.40***
集団に溶け込めない悩み	.15*	.35***
社会的場面で当惑する悩み	.07	.34***
目が気になる悩み	.15*	.37***
自分を統制できない悩み	.23***	.35***
生きることに疲れている悩み	.25***	.54***

*p <.05, ***p <.001

の有意な正の相関を示した。これらの結果は，概ね予測通りで，大学生の結果（堀井，2013b）とほぼ同一であった。また，対人恐怖心性尺度は「登校回避行動」よりも「登校回避感情」との相関が高めに算出され，この結果もまた大学生の結果（堀井，2013b）と一致した。対人恐怖心性は総じて中学から高校にかけて高まりやすく，その現象は高校生特有の自意識の強さが影響を与えている（堀井，2002）。このような自意識過剰性が対人恐怖心性を強め，対人恐怖心性の強さが「登校回避感情」の高まりに影響を与えている可能性がある。

次に，高校生不登校傾向尺度と年間欠席日数との関連を分析するために，Spearman の相関係数を算出した。その結果，高校生不登校傾向尺度の「登校回避行動」が年間欠席日数と.47（p<.001），「登校回避感情」が年間欠席日数と .21（p<.01）の有意な正の相関を示した。これらの結果も予測通りであり，また，「登校回避行動」は「登校回避感情」よりも年間欠席回数との関係において高めの相関が算出された。これらの結果は大学生の結果（堀井，2013b）と符合する。

以上のように，高校生不登校傾向尺度と対人恐怖心性尺度および年間欠席日数との関連を示した結果は，高校生不登校傾向尺度の妥当性を支持するものである。

学校段階差と性差

学校段階（高校・大学）別および性別に，不登校傾向尺度の下位尺度「登校回避行動」と「登校回避感情」の平均値と標準偏差を算出した（Table 3）。尺度分布を確認したところ，高校生男女の「登校回避行動」の得点が全体的にやや左方向に偏る傾向が見られた。

次に，男女ごとに学校段階別の平均値をプロットした図を Figure 1 と Figure 2 に示した。2 要因（学校段階×性）の分散分析を行った結果，Table 3 を見てわかるように，学校段階差については「登校回避行動」と「登校回避感情」ともに有意であり，高校生の得点が大学生よりも有意に低かった。なお，性差と交互作用は認められなかった。

以上の結果，高校生の不登校傾向は大学生よりも低いことが示唆された。前述のように，高校生と大学生の双方において，不登校傾向，特に登校回避感情と対人恐怖心性との密接な関係が認められた。堀井（2002）によれば，対人恐怖心性の「集団に溶け込めない悩み」は高校生よりも大学生が高いことが報告されている。そのため，大学生は高校生よりも，集団とのかかわりに対する苦悩の高まりが一因となって，登校回避感情が高まりやすくなる可能性がある。これは「集団社会への位置づけの確保」（堀井，2002）という大学生の発達課題が影響しているとも考えられる。

Table 3 2要因（学校段階×性）の分散分析の結果

	高校生	大学生	学校段階差		性差	交互作用
	M(SD)	*M(SD)*	*F*		*F*	*F*
登校回避行動	6.75(6.74)	11.92(9.35)	34.04***	高校生＜大学生	0.36	0.71
	6.94(8.23)	10.80(8.45)				
登校回避感情	18.92(8.33)	21.14(7.41)	9.28**	高校生＜大学生	0.44	0.01
	18.52(8.49)	20.61(5.56)				

注）各下位尺度得点の*M*(*SD*)は上段が男子，下段が女子を表す。
p<.01，*p<.001

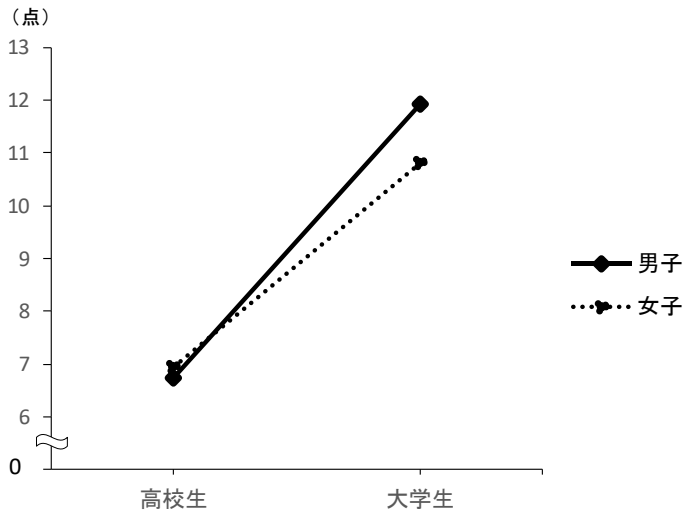

Figure 1　登校回避行動の男女ごとの学校段階別得点

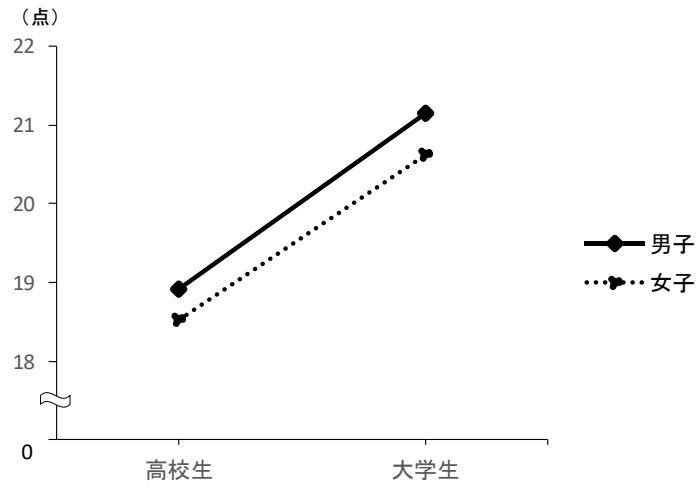

Figure 2　登校回避感情の男女ごとの学校段階別得点

まとめと今後の課題

本研究は，大学生との比較という観点から，高校生不登校傾向尺度を構成し，因子構造，信頼性および妥当性について検討することを目的とした。その結果，高校生不登校傾向尺度は大学生不登校傾向尺度と同様に「登校回避行動」と「登校回避感情」の 2 因子構造であることが確認された。また，高校生不登校傾向尺度は「登校回避行動」「登校回避感情」ともに高い信頼性（内的整合性）をもつことが確認され，対人恐怖心性尺度および年間欠席日数と有意な関連を示したことにより一定の妥当性を備えていることも確認された。

しかし，「登校回避行動」の尺度分布は，全体的にやや左方向に偏る傾向が見られ，尺度としての弁別力に限界が認められる。これは登校を回避するという行動面が生じにくいことの表れでもある。今後研究目的で用い，パラメトリックな手法を採用し，尺度の弁別力を重視するのであれば，「登校回避感情」のみを取り上げ，「登校回避感情尺度」として使用しても差し支えないと考えられる。

高校生の不登校傾向は要因および支援の在り方など不明瞭な点も少なくないため，今後の研究の蓄積が待たれるところである。

引用文献

有賀 美恵子・鈴木 英子・多賀谷 昭（2010）．不登校傾向に関する研究の動向と課題 長野県看護大学紀要，*12*，43-60.

五十嵐 哲也（2010）．小学生用不登校傾向尺度の作成と信頼性・妥当性に関する検討 愛知教育大学教育実践総合センター紀要，*13*，211-216.

五十嵐 哲也・萩原 久子（2004）．中学生の不登校傾向と幼少期の父親および母親への愛着との関連 教育心理学研究，*52*，264-276.

堀井 俊章（2002）．青年期における対人不安意識の発達的変化（続報） 山形大学紀要（教育科学），*13*，79-94.

堀井 俊章（2013a）．大学生の不登校に関する研究の動向 横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅰ（教育科学），*15*，75-84.

堀井 俊章（2013b）．大学生不登校傾向尺度の開発 学生相談研究，*33*，246-258.

堀井 俊章（2021）．大学生における対人恐怖心性の時代的推移（続報） 横浜国立大学教育学部紀要Ⅰ（教育科学），*4*，176-182.

堀井 俊章・小川 捷之（1996）．対人恐怖心性尺度の作成 上智大学心理学年報，*20*，55-65.

堀井 俊章・小川 捷之（1997）．対人恐怖心性尺度の作成（続報） 上智大学心理学年報，*21*，43-51.

水田一郎・小林哲郎・石谷真一・安住伸子・井出草平・谷口由利子（2009）．大学生に見出されるひきこもりの精神医学的な実態把握と援助に関する研究 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業――思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究――平成 20 年度 総括・分担研究報告書，79-101.

水田一郎・小林哲郎・石谷真一・安住伸子・井出草平・谷口由利子・草野智洋（2010）．大学生に見出される不登校・ひきこもりの実態把握と支援に関する研究 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業――思春期のひきこもりをもたら

す精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究――　平成 19～21 年度 総合研究報告書，53-55.
文部科学省（2019）. 不登校児童生徒への支援の在り方について（通知） Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm（2021 年 9 月 20 日）
文部科学省（2020）. 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf（2021 年 9 月 20 日）
日本財団（2018）. 不登校傾向にある子どもの実態調査　Retrieved from https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/new_inf_201811212_01.pdf（2021 年 9 月 20 日）
小柳 晴生（1996）. 大学生の不登校――生き方の変更の場として大学を利用する学生たち――こころの科学，*69*，33-38.
鈴木 美樹江（2017）. 高校生における不適応徴候と不登校傾向および登校状況との関連　人間と環境，*8*，29-36.
高塚 雄介（2000）. 大学生の不登校の心理的要因についての考察　第 21 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書，74-75.
高塚 雄介（2002）. ひきこもる心理 とじこもる心理――自立社会の落とし穴――学陽書房

Appendix 1　質問紙「高校生不登校傾向尺度」

あなたの学校生活の様子や気持ちについてお尋ねします。次のことがらが自分に「あてはまる」か「あてはまらない」か，その程度（数字）を○で囲んでください。

	全然あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	非常にあてはまる
1) 日曜日の夜，明日 学校に行きたくないと思うことがある ・・・	0	1	2	3	4	5	6
2) 朝，今日は学校に行きたくないと思うことがある ・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
3) 授業を遅刻しがちである ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
4) 学校に行きたいけれどもなぜか行けないことがある ・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
5) 学校に行くのは楽しい ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
6) なんとなく学校に行かないことがある ・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
7) 一日の授業がすべて終わる前に帰宅したくなることがある ・・	0	1	2	3	4	5	6
8) 一日の授業がすべて終わる前に帰宅することがある ・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
9) 参加したくない授業がある ・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
10) 欠席しがちな授業がある ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
11) 学校をしばらく休みたいと思うことがある ・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
12) 学校を休みがちである ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6

（備考）
「登校回避行動」の得点は，項目3,4,6,8,10,12の合計値
「登校回避感情」の得点は，項目1,2,5(逆転後),7,9,11の合計値

Appendix 2　質問紙「対人恐怖心性尺度」

ここには，さまざまな悩みや不満が書かれています。ここに書かれていることがらをよく読んで，それが自分に，「あてはまる」か「あてはまらない」か，その程度（番号）を〇印で囲ってください。あまり考えすぎるとわからなくなることがあります。自分にあてはまるかどうか，読んですぐ，どんどん記入していってください。

	全然あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	非常にあてはまる
1）他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる。・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
2）集団のなかに溶け込めない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
3）人前に出るとオドオドしてしまう。・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
4）人と目を合わせていられない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
5）ひとつのことに集中できない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
6）生きていることに価値を見いだせない。・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
7）自分が人にどう見られているのかクヨクヨ考えてしまう。・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
8）グループでのつき合いが苦手である。　・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
9）会議などの発言が困難である。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
10）人の目を見るのがとてもつらい。・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
11）根気がなく、何ごとも長続きしない。・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
12）充実して生きている感じがしない。・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
13）自分が相手の人にイヤな感じを与えているように思ってしまう。・・・	0	1	2	3	4	5	6
14）仲間のなかに溶け込めない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
15）人がたくさんいるところでは気恥ずかしくて話せない。・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
16）人と話をするとき、目をどこにもっていっていいかわからない。・・・	0	1	2	3	4	5	6
17）計画を立てても実行がともなわない。・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
18）いつも疲れているような感じがする。・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
19）自分のことが他の人に知られるのではないかとよく気にする。・・・・	0	1	2	3	4	5	6
20）人との交際が苦手である。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
21）大ぜいの人のなかで向かい合って話すのが苦手である。・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
22）顔をジーッと見られるのがつらい。・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
23）意志が弱い。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
24）いつも頭が重い。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
25）人と会うとき、自分の顔つきが気になる。・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
26）人が大ぜいいると、うまく会話のなかに入っていけない。・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
27）引っ込みじあんである。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
28）向かい合って仕事をしているとき、相手に顔を見られるのがつらい。・	0	1	2	3	4	5	6
29）すぐに気持ちがくじける。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6
30）何をやってもうまくいかない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	1	2	3	4	5	6

（備考）

尺度Ⅰ＜自分や他人が気になる＞悩みの得点は，項目1, 7, 13, 19, 25の合計値

尺度Ⅱ＜集団に溶け込めない＞悩みの得点は，項目2, 8, 14, 20, 26の合計値

尺度Ⅲ＜社会的場面で当惑する＞悩みの得点は，項目3, 9, 15, 21, 27の合計値

尺度Ⅳ＜目が気になる＞悩みの得点は，項目4, 10, 16, 22, 28 の合計値

尺度Ⅴ＜自分を統制できない＞悩みの得点は，項目5, 11, 17, 23, 29 の合計値

尺度Ⅵ＜生きることに疲れている＞悩みの得点は，項目6, 12, 18, 24, 30 の合計値